

第 1 回働き方・地域活性化検討会議【議事要旨】

■日時 令和 5 年 3 月 15 日（水）午後 2 時～午後 3 時 30 分

■会場 春日井市役所 6 階 研修室

1 アクションプランの基本的な方向性について

- (1) 基本施策と取組の方向性との間が飛躍している感じがある。

2 基本施策 3 誰もが安心していきいきと働ける環境づくりについて

- (1) 人材不足が課題となっている。雇用しても続かないため、女性や外国人実習生に頼っている。
- (2) 外国人実習生は言葉の問題で免許を取得できないなど、一人で動けない事情があり、生産性が落ちてしまう。商工会議所が日本語教室を開催しているが、数回のセミナーでは効果はない。
- (3) 有効求人倍率は 1.39 倍だが、市内充足率は 10% 程度。名古屋に出てしまうことが多く、魅力ある職場をどう作るかが課題。
- (4) 魅力ある職場の一つとして、賃金アップや研修制度の充実など仕組み作りが必要だが、賃金アップは市では難しいと思う。賃金を上げると業績に影響がでることも懸念される。
- (5) 市が賃上げを直接的に補助することはできないが、国の補助金の中には賃上げを条件としているものもあり工夫していく必要がある。
- (6) 自衛隊の駐屯地があるため、自衛隊員への PR や活用はどうか。ハローワークは自衛隊員援護協会と連携している。
- (7) 男性経営者の団体は多いが、女性経営者の相談する先が少ないため支援があると良い。
- (8) 商工会議所女性会の半数が個人事業主であり集客に苦慮している。市や商工会議所がビジネスマッチング事業を行っているが B to B が多い。B to C 向けの企画も必要。
- (9) 女性の正社員は家庭との両立が難しく数が少ない。扶養の範囲内で働きたい人が多い。
- (10) 子どもを産んでも祖父母がいないと働き続けられない。子どもを習い事に連れていけない、迎えに行けないなど子どもに対し負い目をもつ社会になっていると感じるため、働きながらも負い目を感じないような支援があるとよい。
- (11) 子どもが保育園の間は安心して預けて働けるが、小学校にあがると親の目が保育から教育に変わる。教育的な働きかけを子どもにしていくべきという視点になる。思うように子育てができず、罪悪感を抱きながら働き続けることにジレンマを感じて退職を選んでしまう女性も多い。女性が短時間でも働きながらキャリアアップできる仕組みづくりが必要。

3 基本施策4 商業の活性化について

- (1) 市内に商店街といえるのは勝川くらいしかない。商店“街”という視点では現状に合っていない。
- (2) 商店街の衰退は全国的な課題。商店街復活の事例がどこかにあると思うので事例の掘り起こしをしてはどうか。
- (3) 大型店やチェーン店が入ってきて、地元の店は高齢化でやめてしまう。地元頑張ってもらうための支援が必要。
- (4) どこに商店街があるかわからない。あってもシャッター街になっている。地元の会社に頑張ってもらうのがよい。
- (5) 特定地区の商店街を復活させるようなプロジェクトをやってはどうか。
- (6) 勝川地区も弘法市のようなイベント時は人がくるが、普段使ってもらう店になれていない。
- (7) 個店の魅力上昇が必要なことはわかっているが、家族で経営していることが多く、マンパワーが不足している。後継者問題についても同様、認識はしているが動けない。
- (8) 商業団体調査の結果からは後ろ向きな意見が多くみられる。また、「何をして良いかわからない」という回答が多い。「商店街が何を求めているのか」、「市の施策には何があるのか」など商店街と行政の双方が情報に触れる機会を増やす必要がある。
- (9) 岡崎では大河で話題の家康よりも、YouTuberの方が人気があり、YouTuber 目当てに若い人がくる。
- (10) 岡崎で地元愛着醸成と店舗支援の組み合わせ、家康検定をやっている。合格すると地元のお店の割引券がもらえる。小学生が多く受けており地元愛着に繋がる。
- (11) 歴史の好きな方、歴女などが流行っている。サボテンだけでは難しい。
- (12) 電子地域通貨について商店街連合会が動いている。市や商工会議所の支援がないと成り立たない。